外国人から日本についてよく聞かれる２５０の質問
（日常編パート３）

動画リンク：https://youtu.be/4BJLkUVX78c

今回は「外国人から日本についてよく聞かれる２５０の質問（日常編）」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く（＋　２０％）なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立てください。

■私のこと

こんにちは、佐野圭介といいます。３０歳で東京で働く会社員です。大学時代、留学生との交流サークルに所属したことがきっかけで、多くの外国人の友人ができました。彼らと話す中で、日本の文化や日常生活がどのように見られているのかを知ることができ、私自身も「日本ってこんなに独特で面白いんだ」と改めて感じることがたくさんありました。

その後、仕事を通じて海外の取引先とやり取りをする機会が増え、日本の魅力や特徴を説明する場面が多くなりました。そこで感じたのは、日本人にとって当たり前のことが、海外の方にとっては驚きや疑問として映ることが多いということです。そうした「違い」に興味を持ち、改めて日本独自の文化や価値観について考えるようになりました。

今回の動画は、外国人からよく寄せられる２５０の質問の中から「日常生活」に関するテーマを取り上げるシリーズの第３弾です。これまで２回にわたって、日本の日常生活に関する質問を掘り下げてきましたが、今回も「日本の日常の不思議」に迫っていきたいと思います。

私たちが普段の生活で当たり前だと思っていることや、気づかないうちに守っているルールが、海外の方にはどのように見えるのか、一緒に考えてみましょう。この動画を通じて、日本の日常にある『日本らしさ』を新しく発見してもらえたらうれしいです。

■多くの人が今も布団を使っているの？

調査によると、現在の寝具として「ベッド（マットレス）」を使用している人は全体の約６０％、一方で「布団（敷布団）」を使用している人は約４０％という結果が出ています。現在の主流はベッド派と言えますが、布団派も一定の割合を占めています。日本の伝統的な寝具である布団は、畳の上で寝るスタイルにぴったりで、狭い住宅でも効率的にスペースを使えるのが大きな魅力だと思います。布団は寝るときに敷いて、朝になれば簡単に畳んで収納できるので、部屋を広く使いたい人にとって、とても実用的です。

さらに、日本の気候に合わせて、布団は季節ごとに使い分けることができるのも特徴だと思います。夏は薄い布団で涼しく、冬は厚い布団で暖かく眠れるのは、本当に便利です。こうした実用性が、布団文化が今でも根強く残っている理由の一つだと感じます。

私も旅館などで布団に寝ると、独特の快適さや落ち着きを感じます。畳の上に敷かれた布団に包まれて寝ると、日本の伝統や生活文化を改めて実感することができます。

布団は、日本人の暮らしや知恵が詰まった文化の一部だと思います。こうした布団文化が今も愛されているのは、日本の生活スタイルの良さを象徴しているのではないでしょうか。

■多くの人が洗濯物を外で干しているけど、乾燥機を持っていないの？

多くの日本人が洗濯物を外で干すのは、とても合理的な理由があると思います。まず、乾燥機は電気を多く消費するため、ランニングコストが高くなることがあります。その点、天気の良い日には外で干すことで、電気代を節約できるのは大きなメリットだと感じます。特に、環境にも優しい方法なので、外干しを選ぶ人が多いのです。

また、日本の住宅事情も影響していると思います。マンションやアパートでは、乾燥機を置くスペースが限られていることが多いので、外に干す方が効率的です。ベランダや庭が活用できる環境であれば、自然の風や日光を使って衣類を乾かすのが理にかなっています。

さらに、外で干すことで衣類がふんわり仕上がり、日光に当たることで匂いが良くなるという利点もあります。乾燥機がない家庭もありますが、日本では外干しが一般的な方法として日常に根付いているので、必ずしも乾燥機を使う必要性を感じない人が多いのでしょう。

こうした理由から、外干しはコスト面でも環境面でも日本の暮らしに合った選択肢だと改めて思います。晴れた日に外で洗濯物を干すと、自然の恵みを感じられてなんだか気分が良くなります。

■会計のときに明細を細かく確認しない日本人が多いのはなぜ？

日本人がレストランで会計の際に明細を細かく確認しない理由には、やはり日本特有の社会的な信頼や礼儀の文化が大きく影響していると思います。日本では、お店や店員に対して基本的に信頼を寄せている人が多く、「お店が出した明細は間違いないだろう」という前提で支払うのが一般的です。この信頼感が、細かい確認をしなくても安心して支払いをする行動につながっているのだと思います。

また、細かい金額の確認を会計時に求めることが、場合によっては不快に思われたり、店員を疑っているように感じられることもあるため、日本ではこうした行為を避けるのが礼儀とされています。特に少額の場合は、わざわざ確認せずにそのまま支払うことが多いです。こうした振る舞いは、日本の「相手を信頼し、余計な疑いを持たない」という価値観を反映しているように感じます。

ただし、高額な金額や特別なケースでは、細かく確認する人ももちろんいます。それでも、全体的には大きな誤りがない限り、店員やお店に対して疑いの気持ちを持たずに支払いをする文化が根付いているのが日本の特徴だと思います。

私自身も、普段レストランでの会計時にはあまり明細を細かく確認しないことが多いです。それは、お店や店員に対する信頼感や、会計の場で円滑に済ませたいという気持ちがあるからだと思います。こうした日本独特の価値観が、日常の中で自然と根付いていることに改めて気づかされます。

■なぜ多くの日本人は筆箱を持っているの？

筆箱は、ペンや鉛筆、消しゴムなどの文房具を整理して持ち運ぶための便利な道具として、多くの場面で活用されています。特に、日本の学校では、勉強に必要な文房具をいつも揃えて持っていることが求められるので、筆箱は学生にとって欠かせないアイテムだと思います。

また、社会人でも筆箱を持ち歩く人は少なくありません。仕事中にメモを取ったり、書類にサインをしたりと、文房具が必要になる場面は意外と多いです。筆箱を持っていると、必要なものを一つの場所にまとめて管理できるので、使いたいときにすぐに取り出せる便利さがあるのだと思います。

私自身も筆箱を使っていますが、整理整頓ができるだけでなく、持ち運びが楽なのでとても助かっています。特に仕事やプライベートで外出するときに、ペンやメモ帳がすぐ使える状態になっているのは安心感があります。
もちろん、個人のライフスタイルや仕事の内容によっては筆箱が必ずしも必要ではない場合もありますが、それでも多くの日本人にとって筆箱は実用性と便利さを兼ね備えたアイテムとして、日常生活の中で広く使われ続けているのだと思います。

■先輩、後輩の上下関係があるって本当？

日本の社会では、先輩と後輩の関係がとても大切にされています。この関係は、特に学校や会社などの集団の中でよく見られます。先輩は後輩に対して、自分が積んできた経験や知識を教える役割を持っていて、後輩は先輩を尊敬し、礼儀正しく接することが求められるのが特徴的だと思います。

先輩と後輩の間には確かに上下関係がありますが、これはあくまで集団の秩序を守り、円滑に物事を進めるためのものです。後輩は先輩の指示に従うことが多いですが、それだけでなく、先輩には後輩の成長を助ける役割も期待されています。私自身も、これまで仕事の中で先輩から多くのことを教わってきましたし、後輩をサポートすることで学ぶことも多いと感じています。

ただ、この上下関係は決して一方的なものではなく、尊敬と協力の上に成り立っているのが大切なポイントです。先輩が後輩を気遣い、後輩がその努力に感謝することで、お互いに良い関係を築くことができるのだと思います。
こうした先輩と後輩の関係は、日本独特の文化として興味深いですし、人間関係の中で成長する大きなチャンスを与えてくれるものだと改めて感じます。

■なぜ日本人は人の血液型を聞くのが好きなの？

日本では、血液型を聞くことがよくあります。これは、血液型によって性格や特徴が異なるという考え方が広まっているからだと思います。実際には、血液型と性格の間に科学的な根拠はないのですが、占いや心理学の一部として、日本では血液型と性格を結びつけて考えることが日常的に行われています。

私もこれまで、友人や同僚と血液型の話をすることが何度もありましたが、相手の血液型を聞くと、その人の性格や気質についてなんとなくイメージが湧くのが面白いです。たとえば、「A型の人は几帳面」とか「B型の人はマイペース」といったイメージが、日本人の間ではある程度共有されているので、話題が自然と盛り上がることがあります。
また、血液型の話題は、初対面の人との会話のきっかけにもなりやすいと思います。お互いの血液型を知ることで、「やっぱりそういう性格なんだ！」とか「意外と違うね」と盛り上がることも多いです。軽い雑談として親しまれているからこそ、気軽に話題にできるのが血液型トークの魅力です。

私自身は血液型が性格に影響を与えるとは思っていませんが、それでも血液型をきっかけにする会話は、人との距離を縮めるのに役立つと感じています。日本独特の文化として、血液型の話題が今も多くの人に親しまれているのは興味深いです。

■なぜ日本人は地震が来ても驚かないの？

日本では地震が非常に頻繁に発生するため、地震が起きても驚かない人が多いのは特徴的です。日本は「地震大国」と呼ばれるほど地震が多い国で、そのため建物や道路の耐震性が非常に高く設計されているのも、日本ならではの対策だと思います。また、小学校や職場などで地震に備える訓練や教育が行われているので、地震が起きた際にも冷静に行動できる人が多いのではないでしょうか。
さらに、日本では地震が発生すると、テレビやラジオで迅速に速報が流れます。震源地や揺れの強さ、津波の有無など、必要な情報がすぐに伝えられるので、状況を正確に把握して行動できるのは心強いと感じます。私も、地震速報を見て冷静さを保てた経験があります。

こうした対策や日常的な備えが、日本人の冷静な対応を支えているのだと思います。地震が多い環境で育っているからこそ、「まず安全を確保し、状況を確認する」という行動が自然に身についているのかもしれません。

それでも、大きな地震はいつ起こるかわからないので、常に備えを怠らないことが重要です。私も、非常用の持ち出し袋や防災グッズを揃えることで、いざというときに備えています。こうした文化や習慣は、日本の地震対策の強みであり、世界からも注目されている部分だと感じます。

■どうしてカラオケに一人で行くの？

最近、日本では一人でカラオケに行くことが珍しくなくなっています。その理由の一つは、カラオケが個人の楽しみとして認識されてきたからだと思います。カラオケといえば、友達や同僚と一緒に行くイメージが強いですが、一人カラオケはまた違った魅力があります。

一人カラオケは、ストレス発散やリラックスの方法として、とても人気があります。他人を気にせず、自分の好きな曲を自由に選んで思いっきり歌えるので、自己表現の場として楽しむ人も多いです。

また、最近のカラオケ店では、一人でも気軽に利用できる小さめの部屋が用意されていることが多く、料金も手ごろなので、とても利用しやすい環境が整っています。こうした施設の工夫も、一人カラオケの人気を後押ししているのだと思います。

一人で行くことで、自分だけの時間を存分に楽しむことができるのが、一人カラオケの一番の魅力ではないでしょうか。友達とワイワイ盛り上がるカラオケも楽しいですが、一人で集中して歌う時間も素晴らしいものです。

■カフェで席を確保するのにカバンやスマホを置いておくのが信じられません。

日本では、カフェで席を確保するためにカバンやスマホを置いておく光景をよく見かけます。この習慣は、特に混雑している時間帯に、他のお客さんに席を取られないようにするための方法として広く行われています。日本のカフェはとても人気があり、ピークタイムには空いている席を探すのが難しいこともあるので、こうした方法が自然と定着しているのだと思います。

カバンやスマホを置いて席を確保しておくことで、安心して注文をしに行ったり、トイレに行ったりすることができます。私も、混んでいるカフェで席を取るのに苦労した経験があるので、この方法の便利さを実感することがあります。

ただし、この方法はすべての状況で歓迎されるわけではありません。他のお客さんが待っている場合や、長時間席を占有するような行動は、不快に思われることもあるので、周囲の状況に気を配ることが大切です。

また、防犯の観点からも、貴重品を置きっぱなしにしないよう注意が必要だと思います。
こうした席の確保方法は、日本ならではの文化や、治安の良さを反映している部分もあると感じますが、マナーや安全面にも配慮しながら利用することが大切です。

■なぜ日本語には多くの名前の呼び方があるの？

日本語に多くの人称代名詞があるのは、日本特有の文化や社会的なルールが深く関係していると思います。日本語では、話す相手との関係性や状況に応じて言葉遣いが変わります。例えば、目上の人には敬語を使い、親しい友人にはもっとカジュアルな言葉を使うように、人称代名詞もその場面に合わせて使い分けることが求められるのです。

自分を表す代名詞だけでも、「私」や「僕」、「俺」などさまざまな選択肢があります。また、相手を指す場合でも、「あなた」や「君」、さらには名前や役職を使うことが一般的です。そして第三者を指すときには、「彼」や「彼女」などがありますが、これも状況や話し手の意図によって使い分けられます。

さらに、日本には自己主張を控えめにし、相手を尊重する文化があるため、人称代名詞をあまり使わずに名前で呼ぶことも多いです。例えば、仕事の場面では「山田さん」や「部長」といった形で相手を呼ぶことが一般的です。こうした言葉遣いが、相手との関係性を円滑にするための大切な手段となっているのだと思います。
ただ、この使い分けは、初めて学ぶ人にとっては少し難しく感じる部分かもしれません。でも、それだけ相手への配慮や状況への対応が重視されている言語なのだと思うと、とても興味深いです。

■電話で話すときの「もしもし」ってどんな意味？

「もしもし」は、日本語で電話をかけるときに使う特別な挨拶です。この言葉は、もともと「申し」という言葉を繰返して短くしたものです。「申し」には「これから話をします」という意味があります。
電話が普及する前、日本では人に声をかけるときに「もしもし」と言って自分の存在を知らせる習慣があったようです。このような使い方が電話でも自然と取り入れられ、相手に呼びかけるための言葉として定着しました。

「もしもし」は簡単で覚えやすい言葉なので、電話をかけるときの最初の挨拶として、多くの人に親しまれています。この言葉を使うことで、相手に自分が話し始める準備ができていることを伝え、スムーズに会話を始めることができます。

■なぜ日本にはフリーＷｉ－Ｆｉが少ないの？

日本でフリーＷｉ－Ｆｉが少ない理由は、いくつかの要因があります。まず、日本ではスマートフォンのデータ通信が非常に発達しており、多くの人が自分の携帯電話のデータ通信を利用してインターネットにアクセスしています。そのため、他の国ほど公共の場でフリーＷｉ－Ｆｉを必要としないという背景があります。これが、無料Ｗｉ－Ｆｉサービスの需要が低かった一因です。

また、セキュリティの問題もフリーＷｉ－Ｆｉが普及しにくい理由の一つです。公共の場所でＷｉ－Ｆｉを提供する際には、利用者のデータを守るためにセキュリティやプライバシーの保護が重要になります。日本では、こうしたリスクに慎重な姿勢を取る傾向があり、その結果として、フリーＷｉ－Ｆｉの提供が制限されてきました。

最近では、観光地や駅、カフェなど、外国人観光客や利用者のニーズに応えるためにフリーＷｉ－Ｆｉが増えていますが、まだ普及段階にあります。他の国と比べると、利用できる場所が限られている印象を受けるかもしれません。

ただし、日本では通信インフラが非常に安定しており、データ通信が便利で快適に利用できることも理由の一つと言えます。そのため、フリーＷｉ－Ｆｉが少ない一方で、個人のデータ通信で十分にカバーできる環境が整っているのが特徴です。

■日本ではクレジットカードを使えるお店が少ないって本当？

日本では、クレジットカードが使えるお店が増えてきている一方で、現金主義の文化が根強く残っています。そのため、クレジットカードが利用できない場所もまだ多いのが現状です。特に、小規模な店舗や地方の飲食店、観光地以外のエリアでは、クレジットカードを受け付けていない場合があります。

これは、過去にクレジットカードに対する信頼感が低かったことや、現金での支払いが長年一般的であったことが背景にあります。

しかし、近年ではキャッシュレス化が進み、大都市圏や観光地、ショッピングモールなどでは、クレジットカードを使える場所が増えてきました。また、外国人観光客の増加に伴い、多言語対応の決済システムやクレジットカード利用を促進する取り組みも見られます。
とはいえ、日本では今でも現金を好む人が多く、全ての場所でクレジットカードが利用できるわけではありません。そのため、特に地方や小規模な店舗を訪れる際には、現金を持ち歩くのが無難です。こうした現金主義の文化は、信頼性や安全性を重視する日本の価値観とも関係しているのかもしれません。

■なぜ日本の街中には自動販売機がこんなに多いの？

日本の街中に自動販売機が多いのは、日本人のライフスタイルや便利さを重視する社会の特徴が関係していると思います。特に、忙しい日常生活を送る人々にとって、自動販売機は２４時間いつでも手軽に飲み物を買える便利な存在です。私も、仕事で外回りをしているときに自動販売機があると、つい立ち寄ってしまうことがあります。
さらに、日本の治安の良さも大きな要因だと思います。公共の場所に設置された自動販売機が安心して利用され、壊されたり盗まれたりするリスクが少ないのは、日本ならではの環境ではないでしょうか。そして、狭いスペースにも設置できるので、駅前や住宅街の隅など、街の至るところに見かけます。

自動販売機は、地域密着型のサービスとしても活用されていると思います。例えば、地元の商品や地域限定の飲み物が販売されていることもあります。こうした工夫も、自動販売機が多くの人に利用されている理由の一つだと感じます。

■なぜ日本ではペットボトルのリサイクル率が高いの？

日本でペットボトルのリサイクル率が高いのは、リサイクルに対する意識の高さと、整備されたシステムのおかげだと思います。日本では、リサイクルが環境保護のために非常に重要だと広く認識されていて、多くの人が日常生活でリサイクルを実践しています。スーパーマーケットにペットボトル専用のリサイクルボックスが設置されていて、私も買い物のついでにいつも捨てるようにしています。

ペットボトルは再利用しやすい素材なので、リサイクルされたものから新しい製品を作れるのも理由の一つだと思います。日本のリサイクルシステムはとても整備されていて、ゴミの分別が細かく行われているおかげで、効率よくリサイクルが進んでいるのではないでしょうか。
こうした取り組みは、政府や地域社会の努力によるところも大きいと思います。地域ごとにゴミの分別ルールがしっかりしていて、住民もそれを守っているので、結果的にペットボトルのリサイクル率が高いというのは、日本らしい特徴だと感じます。

■なぜ日本では豆腐がよく食べられるの？

日本で豆腐がよく食べられるのは、栄養価が高く、日本の食文化に深く根付いているからだと思います。豆腐は大豆を原料とした食品で、大豆は昔から日本の伝統的な食材として親しまれてきました。特に、豆腐は植物性タンパク質が豊富で、健康を重視する日本人にとっては欠かせない存在です。

また、豆腐の魅力はいろいろな料理につかえるところにあると思います。そのまま冷や奴として食べるのも美味しいですし、煮物や炒め物、さらにはサラダのトッピングとしても活躍します。和食にはもちろん、洋食や中華料理にも合うので、家庭でも頻繁に使われる食材です。私も豆腐を使った料理をよく作りますが、ヘルシーで手軽に調理できるのでとても便利だと感じます。

さらに、豆腐は低カロリーで消化が良いため、健康を意識した食事に最適です。日本の家庭やレストランで豆腐がよく使われているのは、こうした健康的な理由も大きいのだと思います。日本の食卓には欠かせない存在です。

■なぜ日本では畑仕事が趣味として楽しまれるの？

日本で畑仕事が趣味として楽しまれているのは、自然と触れ合いながら、自分で育てた作物を収穫する喜びがあるからだと思います。特に、近年では健康志向が高まり、食の安全への関心が強くなったことで、家庭菜園や畑仕事に興味を持つ人が増えています。自分の手で育てた野菜や果物は新鮮で安心感がありますし、それを収穫して食べる楽しさは格別です。

また、畑仕事は体を動かす良い運動にもなりますし、リラックス効果もあると思います。季節ごとに異なる作物を育てることで、四季を感じながら楽しめるのも魅力です。畑仕事をしている友人の話を聞くと、「毎日野菜の成長を観察するのが楽しい」と言っていました。

さらに、畑仕事は日本の農業の伝統や地域社会とのつながりを大切にする文化とも深く関わっています。地域の人たちと交流しながら作業をすることで、コミュニティの一員としての実感を得ることができるのも、畑仕事の魅力の一つだと思います。こうした点から、畑仕事は単なる趣味以上に、日本らしい文化や価値観を再確認できる素晴らしい活動だと感じます。

■さいごに

私たちにとっては当たり前だと思っていたことが、誰かに質問されたり話題にされたりすることで、『こんなところが面白いんだ！』とか、『確かに不思議だな』と新たな発見につながることがあります。日常生活のちょっとした習慣など、日本特有の文化や価値観が、他の国の人々には驚きや興味を持たれるのだと感じます。
こうした日常の中にある小さな『日本らしさ』は、私たちが普段あまり意識しない部分にたくさん詰まっています。それを他の視点から見つめ直すことで、自分たちの暮らしがどれだけ特別で豊かなものか気づくことができます。

これからも、当たり前だと思っている日々の中で、日本の面白さや美しさを再発見し、それを共有できることが楽しみです。皆さんも、ぜひ身近な日常をもう一度見直してみてください。その中にきっと、誰かに話したくなるような小さな驚きや面白さが隠れているはずです。

「外国人から日本についてよく聞かれる２５０の質問（日常編）」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。

Japanese-listening-SUSHI